

KENBO のメルマガサンプルです。

2本あります。いずれも長いものですが、良かったらご覧くださいませ。

===== まず1本目です =====

**【STAP細胞、現代のベートーヴェン、2チャンネルに反映された現代の世相とは】**

こんにちは、KENBOです。

このところ、世の中を騒がせているいくつかの事件をみて

今の時代、どんな世相が反映されているのだろうかと

ちょっと木坂健宣さん気取りでつらつら考えを巡らせておりました。

それは・・・

- (1) STAP細胞の小保方晴子さん
- (2) 現代のベートーヴェンと呼ばれていた佐村河内氏  
それといきなりローカルな話に落ちてしまいますが
- (3) 2チャンネルの新管理人によるコピー禁止令

この3つに共通したものが何かを探ったお話をいたします。

まず(1)STAP細胞から。

いろいろな報道が為され、リケジョの憧れの的存在であった  
小保方晴子さんは、今とても苦しい立場にあることは明らかです。

私は、3月15日(土)の毎日新聞にあった彼女のコメントが  
一番印象に残っています。

そこには、

『(データの切り張りを) やってはいけないという  
認識がなかった。申し訳ありません。』とありました。

・・・これでコピーが単に悪いとか、そういった四方山な話は置いておきましょう。

私は彼女の” やってはいけないという認識がなかった” という言葉が案外本音のように聞こえていて、そしてそれこそが今の時代を非常によく言い表しているように感じています。

この事件が明らかになってきたのは、STAP 細胞発見が世界トップレベルのニュースであり、それゆえに世界中の科学者たちが針の穴も見落とさないように細部まで論文の検証を進めていったことで、逆に発表直後から外部より問題点を指摘されていたという背景があります。

しかし研究者であれば、これほどの発見に対してさまざまな検証なり裏探しがあがるのは必然と理解しているはずですが。一方で、悪いこととは思ってもいなかったコピペがここに来て取沙汰されるようになって、半分「えっ？」という感じだったかもしれません。

話は途中ですが、(2) 佐村河内氏の場合は確信犯的なものです。こちらはコピペとは意味合いが違いますが、他人の作品を自分のものとして使ったという点では共通しています。

小保方さんのコメントと違うのは、最初から良くないことをやっているという自覚があった点かと。

続けて(3) 2チャンネルでのコピペ禁止令です。

2チャンネル自体がコピペなしには成り立たないのではないかと私はひそかに思うのですが、あえてコピペを禁止するという判断に踏み切ったのはなぜか・・・このままでは検索エンジンから見ると、ただのゴミサイトと認識されるペナルティを恐れたのか、それともコピペを放置することによってサイトの品格や信頼度といったものが維持できないと考えたためか、それとも別の理由か。。

さてここで(1)、(2)、(3)を通じた共通の概念として出てくる『コピペ』・・・悩ましいですね、これ。

思うに、私たちは、今の時代の日本人はコピペ文化に対して『無防備である』と感じています。

コピペするほうも、それを見せられるほうも、です。少なくとも今まではそうではなかったかと思います。

STAP 細胞の件は、あまりに突出した発見ゆえに人目をひいた結果、コピペ問題が浮き彫りになったように感じています。

ベートーヴェンの件は、理由はともかく本当の作者が自ら幕を引いたことで明らかになりました。

2チャンネルのことは、話題性からいうと一番マイナーで隅っこの話に過ぎませんが、ネット上のさまざまな懸念からコピペ禁止という自らの存在価値自体を否定するような動きになってきました。

コピペが良いか悪いか別にして、はっきり言えることがひとつあって、それは新しいものをなにも生み出さない、ということです。新しい文化、新しい情報、独創性に溢れたものが出てこないためやがて衰退していきます。

人間は社会的動物として、本能的に”やばい！”と感知しているのです。

コピペはどう料理しても陳腐になります。その陳腐なものがやばい！ということです。

これって、まさに木坂さんの音声で紹介されていた話です。

※念の為にまた記事 URL を載せておきます

⇒ <http://ifrv.net/kisaka/3700/>

木坂さんの言う、“陳腐であることの恐ろしさ”を  
如実に示した例がここでご紹介した話と重なります。  
陳腐というのは、「悪」を生むのです。

翻って、このメルマガ記事をお読みになっている方は  
ネット活動をされている方ばかりのはずです。

私は、独創性の無いものは残らないというか、  
続かないと痛感しています。

(1)、(2)、(3)の話で思ったことのひとつに  
陳腐の象徴であるコピーへの無防備に対して、  
社会があるべき姿に戻ろうとしている、

その過渡期にあるという感覚です。

Google なんかもコピー、そして今どき意味の無いサイト量産、  
人為的な被リンクなんかを毛嫌いしているように  
コピーの延長線につながる商品やノウハウは  
必ず衰退していきますので、それを煽るような  
ものには十分気をつけましょうね。

私は、特にこういった可能性のある毎月課金型の  
商品の紹介は人気があってもやらないことにしています。

その先に、購入者の失望が待っているのがわかっているからです。

因みにブログなどでコピペをする必要がある場合＝引用ですね、引用は最大でも全体の3%以下に抑えて、なお且つ引用元を必ず明記して、ここの部分が引用であることも明記しておきましょう。

つまり、制御されたコピペを、意識して使うことをおススメします、というお話でした。

●PS：レポート作成実況報告

ここ1, 2週間以内を目途に以下のレポートをプレゼントします。

『外注サイトを賢く使ってあなたのアウトプットを輝かせる方法  
～ランサーズを活用した超絶テクニック～』

外注サイトを使ったことの無い方を含め、KENBOがどのように使い倒しているかそのものズバリをご紹介します。

私が書いているのは、外注サイトHPを見ればすぐわかることではなく、HPに書かれていないことが中心です。

若干あやふやなところなどもあったのですが、ランサーズに直接取材して不明点はなくなりました。

コンテンツのクオリティをより良いものにしてご提供しますね。

KENBO

===サンプル1本目ここまでです=====

=====2 本目のサンプルです=====

『意味はコンテキスト（文脈）にある』というあま〜い具体例をもうひとつ

こんにちは、KENBO です。

先日ご案内したキュレーションを奥深く探検した  
ブログ記事ですが、ああいった長い記事は  
少しずつ手を入れなおす習慣があつて、またちょっと  
修正したらなんと『14分』モノに・・・アワ((° ° ㄥ ㄥ ° ° ))ワフ!!

なんか NHK の朝ドラ並みです。（こちらの記事です）

⇒ <http://ifrv.net/tsasaki/3757/>

いろいろとコメントやメールなどありがとうございます。  
感想をいただけるとそれだけで励みになります。

この長いブログ記事を書いたきっかけが  
木坂健宣さんの1年ぶりのメルマガに加えて、  
3月3日 NHK 番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」  
70歳現役の同時通訳者である長井鞠子さんが、原発事故被災地  
浪江町での国際訪問団との交流の話からでした。

彼女の「ふるさと」の英訳に、とても胸が熱くなりました。

コンテンツ（単語）の使い方、それ自体に意味があるのではなく  
コンテキスト（文脈）に意味があることを思い出させてくれて  
その連想から1年以上もあたためていた考えを書いてみたのです。

長井さんのことをブログで説明したのもそういった背景がありました。

ここでは、そのコンテキストに意味があるということについて  
もうひとつ具体例をお話したいと思います。

なぜここにこだわるのかというと、  
私はネットで稼ぐとかそういった発想以前に、  
情報発信の根幹として理解しておかないと、  
自分の発信する情報が、自分の伝えたいことが伝わらないというのを  
ネットだけではなく長い会社経験も含めて幾度となく痛感しているからです。

脳機能学者で苦米地英人さん（以下ドクター苦米地）ってご存じでしょうか？

私は一度彼の話をじかに聴いた機会があって、  
それがとても面白い話だったので  
もう10年くらいたちますが今でもよく覚えています。

ドイツがまだ西と東に分かれていた時代の話です。  
無断で東から西へ越境を図る人も多く、列車の真下に  
ぴったり張り付いてということも多かったらしく、  
これはまさしく決死の覚悟そのものです。

出発・到着時に軍人が、列車の下を懐中電灯で照らし  
無断越境者がいないかどうか検閲していたということです。

当時、ドクター苦米地が参加する数日間の専門的な会議が  
1年に1回西側で開催されていました。

その会議に出席した東側から来た女性と出会い  
そして二人は恋に落ちました。

数日後、会議が終わると女性は東ドイツに戻らねばなりません。  
次に東から西へ来れる機会は、また1年後の会議  
・・・これが唯一のチャンスです。

簡単に行き来できる時代ではありませんでした。

つまり、織姫と彦星なんですね。

そういった時代背景にあって、なおさら恋心が燃え上がりました。

その年も東へ戻る列車に乗って、彼女は凍った窓の奥から  
ドクター苦米地に小さく手を振り

『またね・・・』

とつぶやきます。

このときの『またね』ですけど・・・

恋人同士が同じ職場で毎日のように顔あわせるとか、

また次のデートがすぐ先であるといったような状況ではないわけです。

時代が時代だけに、運がよくて1年後に、下手をすると

もう一生逢えないといった不安、焦り、緊張感のある

『またね』なわけです。

この違い、お分かりですね。

ドクター苦米地は講演でこう言い切っていました。

『言葉はそれ自体に意味があるのではない。

言葉は文脈の中で意味をもつ。』

ネットというのは言葉を使う場、といたしますか

極論すると言葉だけでコミュニケーションをとる場ですので、

言葉をどう使うかどう受け取られるか、コンテキスト（文脈）の流れと



違和感なく使っているか、そんなことを考えながら、  
おそるおそる書いているサンプルが私というわけです。

今回は、コンテンツ・キュレーションのことを長いブログ記事にした  
流れのまま、じゃあどんなのがそうなの???

というのを探し出した具体例（実際の URL）でお伝えしたいと思います。  
じっくりご覧になると、どのようにそういったサイトを  
運営し、どのように収益につなげているかも  
おおよそでもお分かりになるかと思います。

KENBO

=====ここまで2本目です。長々とお読みいただきありがとうございます。=====

KENBO の異端メルマガはこちらです。

⇒ <http://infobound.net/z/vcgg>